

3rd All Japan Adaptive Stand-up Tennis Tournament 第3回全日本障がい者立位テニス選手権大会

報告書 Report




General Incorporated Foundation
JAPAN ADAPTIVE STAND-UP TENNIS ASSOCIATION

一般社団法人 日本障がい者立位テニス協会

2023.10.25

第3回全日本障がい者立位テニス選手権大会 実施概要

- 🎯 **日 時** 令和5(2023)年10月15日(日)
受付開始 12:15～、開会式 13:30～、試合開始 14:00～
- 🎯 **場 所** 千葉市蘇我スポーツ公園 フクダ電子ヒルスコート
No1~10 コート(オムニコート) 千葉県千葉市中央区川崎町 2-18
- 🎯 **主 催** 一般社団法人 日本障がい者立位テニス協会(JASTA) 
- 🎯 **後 援** 千葉県・千葉市・千葉市教育委員会・公益財団法人日本テニス協会
- 🎯 **協 賛** タムラクリエイト株式会社(Ken's)・BNPパリバ・グループ・ヨネックス株式会社
株式会社キモニー・ウィンザーラケットショップ・日本工学院八王子専門学校
- 🎯 **大会委員長** 柴谷 健(JASTA)
- 🎯 **競技委員長** 中川 勝就(公益財団法人日本プロテニス協会・JASTA)
副委員長 成島 代志子(JASTA)

- 🎯 **参加資格** 身体障害者手帳を保有し、肢体に障がいがある方
(四肢のいずれかの切断、欠損、片麻痺、四肢麻痺、先天性の奇形)
- 🎯 **カテゴリー** A1・A・B1
- 🎯 **出場者数** A1 = 11名・A = 10名・B1 = 5名
- 🎯 **参加費** 5,000円(一般)・3,000円(JASTA PLAYERS CLUB会員)
- 🎯 **競技種目** シングルス
- 🎯 **審判方法** セルフジャッジ
- 🎯 **競技方法** カテゴリーA1・A = 各トーナメント方式(コンソレーションマッチ有り)
JTA テニスルール・ノーアドバンテージ 6ゲーム先取
本戦決勝戦のみ8プロセットマッチ

カテゴリーB1 = 総当り戦、オレンジボール
TAP 規定のコートサイズ→雨上がりでラインが引けない為サービスボックスで実施
ノーアドバンテージ 4ゲーム先取(コートサイズとボール以外はJTAテニスルール)
- 🎯 **使用球** カテゴリーA1・A = ヨネックス ツアープラチナム
カテゴリーB1 = ヨネックス マッスルパワーボール30(オレンジボール)
- 🎯 **関係者数** 18名(出場選手を除く大会スタッフ総数)
- 🎯 **来場者数** 約30名

開催へのご支援お礼

この大会は、日本で（おそらくアジアオセアニア地域でも）唯一の障がい者立位テニス競技の本格的な国内大会です。第1回大会を2019年5月に千葉市にて、第2回大会を2021年10月に成田市にて開催し、今回が第3回大会となります。

今大会は、千葉県、千葉市、千葉市教育委員会、公益財団法人日本テニス協会（JTA）からのご後援と6社のご協賛を賜りました。大会運営スタッフはJASTA PARTNERS CLUBのメンバーや選手のご家族を中心に、名乗り出て下さった16名にお願いしました。お陰さまで、事故もなく大会を終えられました事をご報告し、ご支援頂きました全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

前日夜より天候が思わしくなく、大会当日の昼まで弱い雨が降る予報で、非常に難しい判断を迫られる状況でした。世界で一番大きな民間の気象予報会社ウェザーニューズ社からJASTAにご提供頂いている、アスリート向け気象ウェブサービス「MiCATA」の情報を注視し、競技委員長と協議の上、前日18時に開催についての判断を行いました。その結果、開催中止ではなく、開始時間を遅らせて実施することを決めました。その決断の根拠は、昼にはお天気は回復する見込みであること、コートサーフェスは大変水捌けが良く雨が上がれば使用可能であること、交流イベントやコンソレの実施方法を工夫すれば、少なくとも本戦は成立できる目算が大きいこと、ナイター設備のあるコート数面を追加で確保できたこと、などです。すぐに協賛各社、選手、スタッフにはメールで通知し、JASTAのウェブサイトや各SNSにも掲載し告知を図りました。

北は茨城県、南は兵庫県から29名がエントリーがありました。その中で、怪我や体調不良で3名がエントリー取り消し、当日に棄権が1名あり、25名の選手が障がい別の3つのカテゴリーに分かれて戦いました。カテゴリーBに1人しかエントリーがなかったために、ご本人の意思を確認した上で、一つ上のカテゴリーB1に変更して出場いただきました。

選手受付と同時に弁当を配布し、食べながら雨が上がるのを待ちました。雨が降っている間は、一部のコートに水溜まりができていましたが、ブラシで水掻きを行ったら、すぐに使えるようになったのには驚きました。当初の予定より3時間半遅れてのスタートになりましたが、途中で虹が出るほどお天気も回復し、コンソレを打ち切ることも予定の競技方法を変更することもなく（決勝戦の途中で日没となりましたが）予定の全試合を実施できてホッとしました。

準備していた交流イベントのうち、ストラックアウトは中止しましたが、義足体験は一部の方に体験いただきました。寒く薄暗い1日で、観戦にお越しになった方は多くはありませんでしたが、閉会式が終わるまで見届け、最後の撤収作業まで積極的にお手伝い下さったことに心から感謝申し上げます。

この競技は、来年ヨーロッパで開催される一部の国際大会に国際テニス連盟（ITF）の公認を得ることが決まっています。グランドスラム4大会でも、様々な障がい者テニスを紹介するショーケースイベントが併催され、その中で立位テニスにもスポットが当たっています。JASTA所属の日本人選手も、昨年各地で再開された国際大会へ出場し、好成績を残しています。JASTAは2025年5月に成田市でこの競技の世界大会、TAP JAPAN OPEN 2025を主催いたします。立位テニスは確実にステップアップしています。これからも立位テニスに、JASTAに、どうぞご期待下さい。

第3回全日本障がい者立位テニス選手権大会
大会委員長

柴谷 健 Ken SHIBATANI



会場アクセス

<千葉県 蘇我スポーツ公園 フクダ電子ヒルスコート>



電車

JR 蘇我駅西口より徒歩 30 分

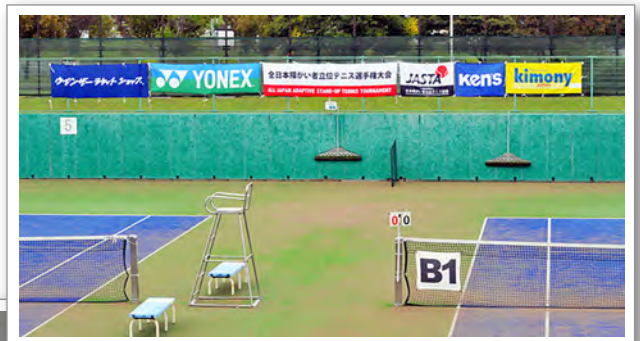


車

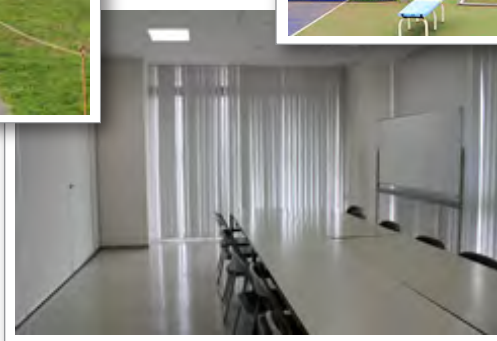
第 2 駐車場 (1 時間 100 円・障がい者は料金免除)



会議室前
(左右に 10 面づつコートがあります)



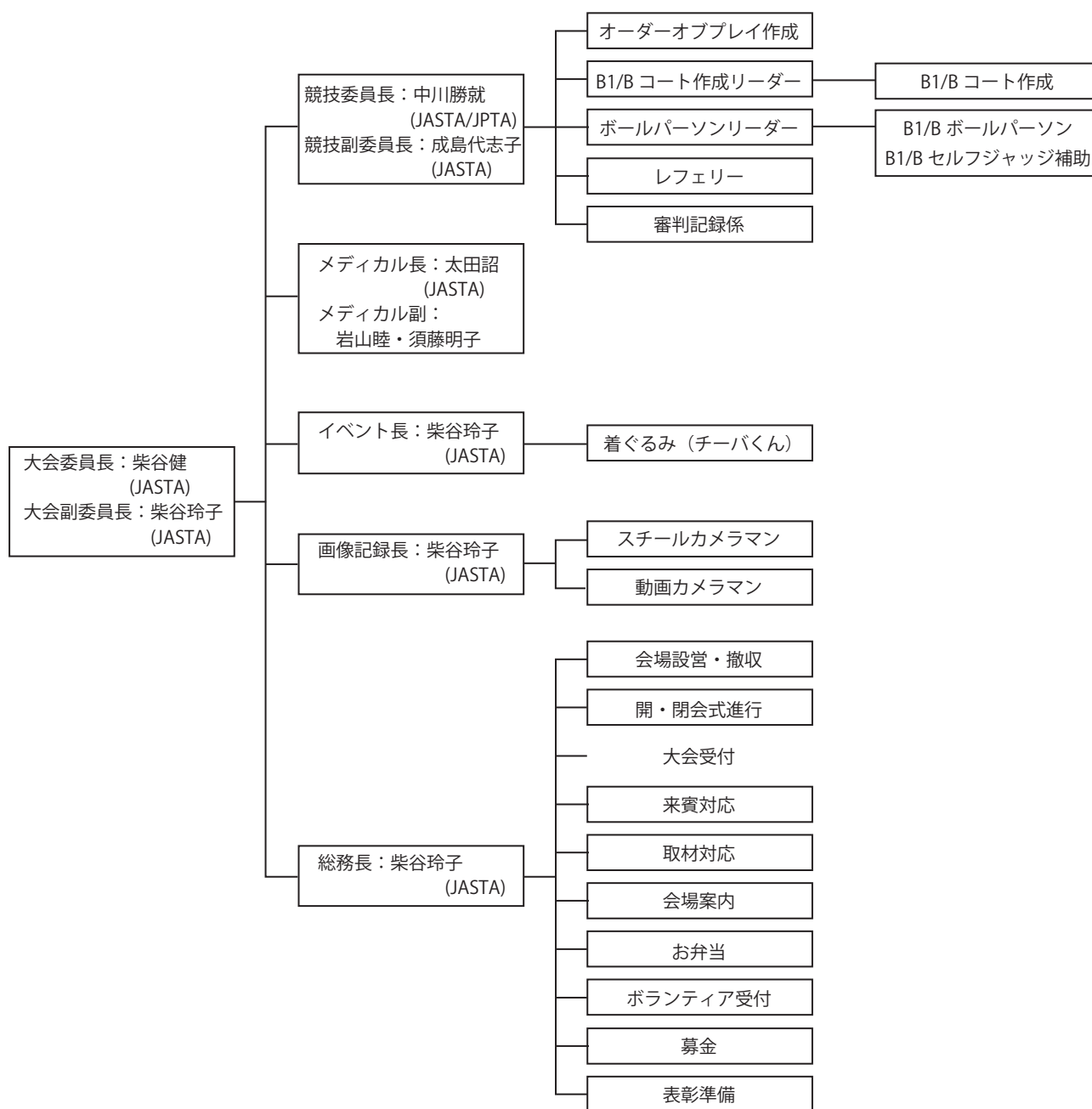
コート



会議室
(大会本部、選手待機室に使用)

スケジュール

- 2022年12月初旬 ● 千葉市へ大会利用希望申し込み（優先予約調査票）
- 2023年1月25日 ● 千葉市より日程確定通知
- 2023年3月下旬 ● 大会告知開始、協賛依頼開始
- 2023年5月5日 ● 大会キービジュアル作成
- 2023年5月中旬 ● 千葉市スポーツ振興課と公園緑地課と協議しコート番号確定
・20面のうちサーフェスを貼替えたコートを利用できるように交渉
- 2023年6月下旬 ● 協賛決まり始める
・予算書・大会要項作成開始
・後援・広告協賛依頼、新規協賛を得るため各方面に交渉開始
- 2023年8月初旬 ● ポスター、チラシ作成、各所へ後援申請
・千葉県の後援申請先が障害者福祉推進課→生涯スポーツ振興課スポーツ室に移管
- 2023年8月6日 ● 大会要項リリース、出場申し込み受付開始
・大会スタッフ募集開始
- 2023年9月10日 ● 大会出場申し込み締め切り
- 2023年9月15日 ● ドロー会議
- 2023年9月中旬 ● 各所より後援名義使用許可下りる
・千葉県、千葉市、千葉市教育委員会より後援名義使用許可
・仮ドロー発表
・実行予算書作成、告知物の発送、保険加入
- 2023年10月初旬 ● 各制作物発注・購入開始
・表彰用品・各種印刷物・大会バナー・協賛バックパネル発注、パンフレット入稿
・大会使用球・運営用品等購入
・運営マニュアル・スタッフ役割分担作成、Zoom ミーティング
・出場辞退によるドロー変更
- 2023年10月11日 ● 会場管理者と最終打合わせ
・お弁当予約、協賛品、パンフレット受領
・中央・美浜公園緑地事務所から都市公園占用使用料の払込書を受領、振込
- 2023年10月14日 ● 大会実行委員会と競技委員長で天候による実施の可否について協議
・予定より開始時間を遅らせて実施することを決定、通知
- 2023年10月15日 ● 大会当日
- 2023年10月25日 ● 大会報告書作成
・報告書・収支報告書作成、後援・協賛・協力の各所へ報告



🔴 大会運営協力スタッフ（敬称略、あいうえお順）

雨宮郁夫・泉 仁志・今村佳奈子・今村正幸・岩山 睦・宇野典子・神崎 空・神崎千鶴・坂倉陽子・佐藤光
庄内久美・須藤明子・田代悠・中川勝就・成島代志子・原田聖也

大会運営を支えて下さり、ありがとうございました。

🔴 大会当日の傷病発生時の受け入れ依頼先

千葉メディカルセンター（院長 福田和正先生に書面にて依頼）

<キービジュアルデザイン>

この大会は、障がい者立位テニス競技の日本一を決める大会である。そこで優勝者に敬意を表し、前大会の各カテゴリー優勝者の写真をキービジュアルに使用する事を通例とする事に決める。

今回の4選手は、第2回大会優勝者。Category A1の高野健一選手、Category Aの杉浦拓真選手、category B1の青木祐成選手、Category Bの玉川まさみ選手。第2回大会の時に、プロカメラマンの泉仁志氏に撮影頂いた写真を撮影者と本人の許諾を得て使用。

ヘッドコピーの「breakthrough」は、「突破する」という意味。長いコロナ禍で足踏みせざるを得なかった現状を打破し、次へのステップに進む決意を込めて。背景にはラケットのストリングをイメージし、動きを感じるデザインを心掛けた。



- ポスター (フルカラー)
A2 タテ 200 枚
- チラシ
(表裏フルカラー)
A4 タテ 2,500 枚

ご後援頂いた千葉市、協賛各社、障害者スポーツセンター、テニス関係企業等に配布して大会告知



- 大会パンフレット (フルカラー)
A4 タテ 20 ページ
400 部
広告掲載 7 社

全国から集まる選手同士の交流や応援に役立て、競技者を理解してもらう為に選手の顔写真とプロフィールを掲載

大会当日に選手とスタッフに配布
後援、協賛先には後日発送
(ドロー表は当日別途配布)

ドロー・結果 Category A1

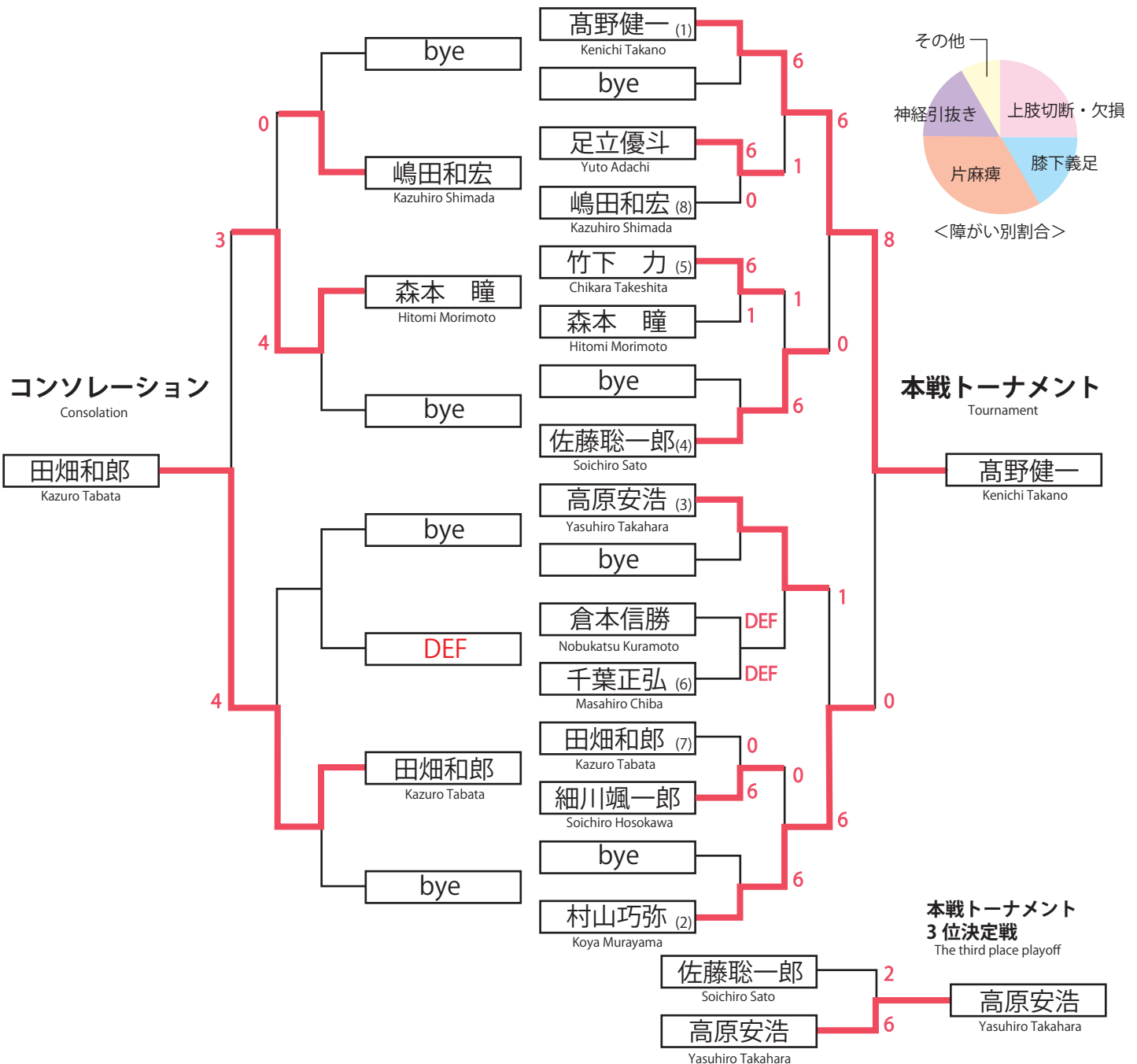
プレゼンター：タムラクリエイト株式会社 代表取締役 田村賢司様（JASTA 特別顧問）



優勝 高野健一選手（千葉県）



準優勝 村山巧弥選手（神奈川県）



ドロー・結果 Category A

プレゼンター：タムラクリエイト株式会社 代表取締役 田村賢司様（JASTA 特別顧問）

Photo by Hitoshi Izumi

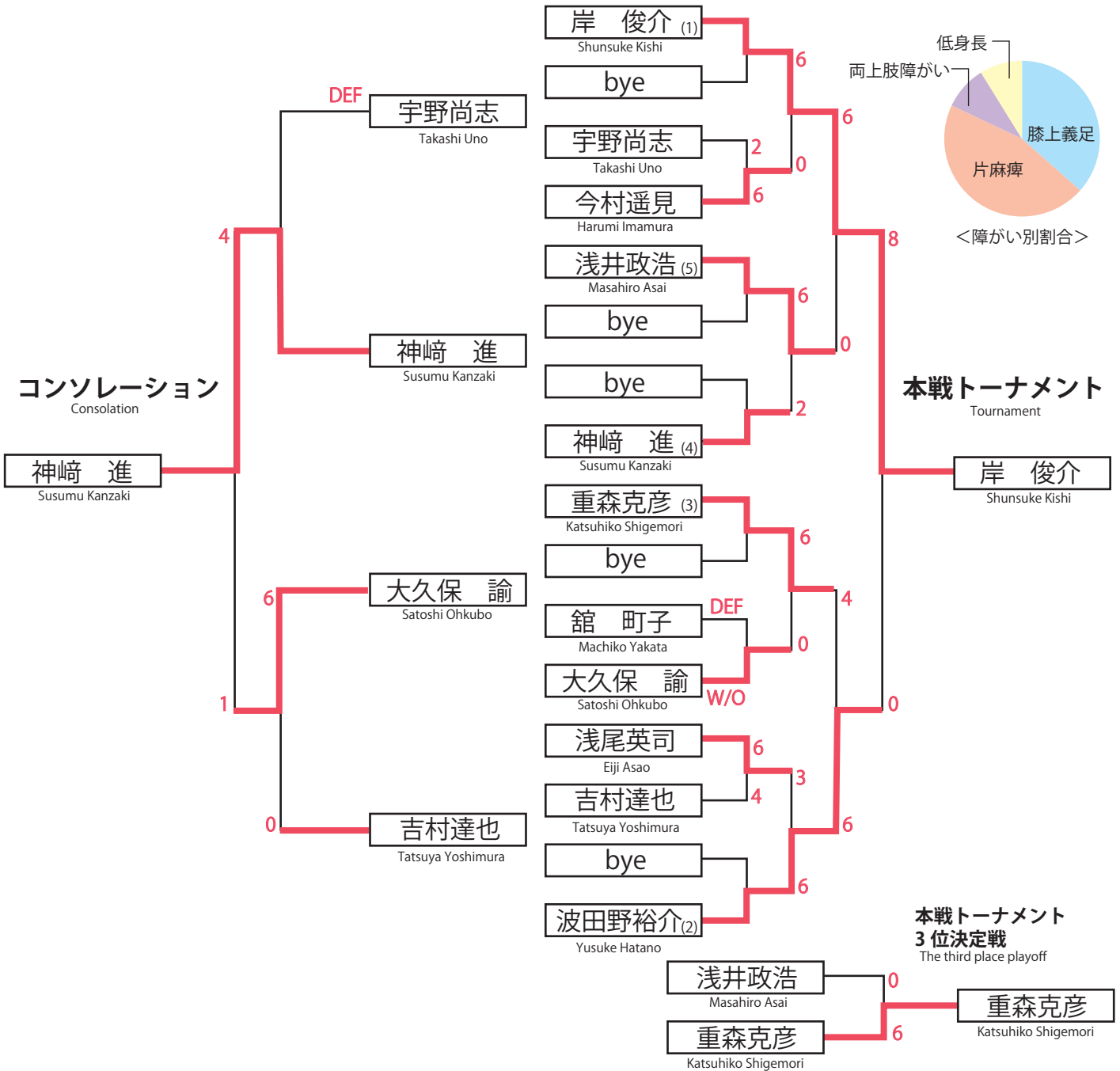


優勝 岸 俊介選手（神奈川県）

Photo by Hitoshi Izumi



準優勝 波田野裕介選手（神奈川県）



ドロー・結果 Category B1

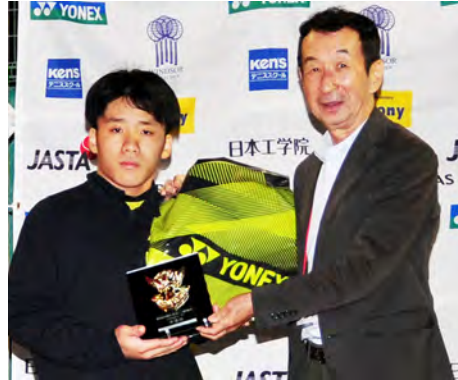
優勝プレゼンター：タムラクリエイティブ株式会社 代表取締役 田村賢司様（JASTA 特別顧問）

Photo by Hitoshi Izumi

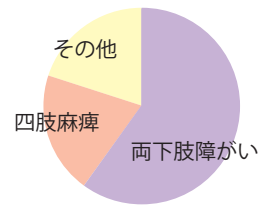


優勝 青木祐成選手（東京都）

Photo by Hitoshi Izumi



準優勝 関谷 譲選手（茨城県）



<障がい別割合>

	Yusei Aoki 青木祐成	Joe Sekiya 関谷 譲	Kana Ohwaki 大脇佳奈	Sho Ohta 太田 詔	Masami Tamagawa 玉川まさみ	勝敗	順位
青木祐成		3-④	④-0	④-1	④-0	3-1	1
関谷 譲	④-3		3-④	④-2	④-0	3-1	2
大脇佳奈	0-④	④-3		④-3	④-0	3-1	3
太田 詔	1-④	2-④	3-④		④-0	1-3	4
玉川まさみ	0-④	0-④	0-④	0-④		0-4	5

※ 玉川まさみ選手は、本来Category Bですが、もう一人のエントリー選手が出場を辞退した為、玉川選手の希望によりカテゴリーB1での出場となりました。

<勝ち数と同じだった3者間でのゲーム取得率>

青木祐成選手=総取得ゲーム数15(3+4+4+4)÷総ゲーム数20(7+4+5+4)=0.75

関谷 譲選手=総取得ゲーム数15(4+3+4+4)÷総ゲーム数24(7+7+6+4)=0.62

大脇佳奈選手=総取得ゲーム数12(0+4+4+4)÷総ゲーム数22(4+7+7+4)=0.54

ドロー・結果 Category B

2名がエントリーされましたが、1名が出場を辞退されたため、このカテゴリーは実施されませんでした

本部・開会式

All Photo by Hitoshi Izumi

大会本部で天候状況による変更を協議



開会前はコートの水掻きを行いました



開会式は会議室前で競技説明のみに短縮



競技説明

<大会競技委員長>日本プロテニス協会 中川 勝就 さま



表彰・閉会式

All Photo by Hitoshi Izumi

各カテゴリー優勝選手



優勝者にはトロフィー、準優勝者には盾を贈呈

副賞はヨネックス株式会社様より優勝者にはリュック、準優勝者にはラケットケース



各カテゴリー準優勝選手



<表彰プレゼンター>

JASTA 特別顧問
タムラクリエイト株式会社
代表取締役 田村賢司様 (写真右)

<大会委員長>

JASTA
柴谷健よりお礼の言葉

閉会式を行う時にはすっかり日が暮れていました



Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



ボールパーソンミーティング



小雨の降る中でのバナー設置



大会バナーと協賛バナー全景



ネットにカテゴリーバナー設置



雨待機の際に義足体験



選手受付



オーダーオブプレイ掲出



手術を受けてリハビリ中の佐藤光選手は運営スタッフとして参加

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi & JASTA



受付で参加賞とプログラムを配布



参加賞としてリポビタミン Sports の商品を配布



受付終了後、昼食を取りながら雨が上がるのを待つ選手たち



出場選手の中には車いすで来場した方もいました



チーバクんと大会委員長



Category B1 の出場者と大会委員長



大脇選手の勤務するフジ建設株式会社様からご寄付を頂きました



Category B1 の青木選手は前回優勝副賞の yonex ツアーバッグを持って参加

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



Category B1 はサービスボックス内をコートサイズとして実施



Category B1 の試合にはボールパーソンを配置



本来は Category B の玉川選手 (奥) は Category B1 に出場



Category A1 決勝戦前



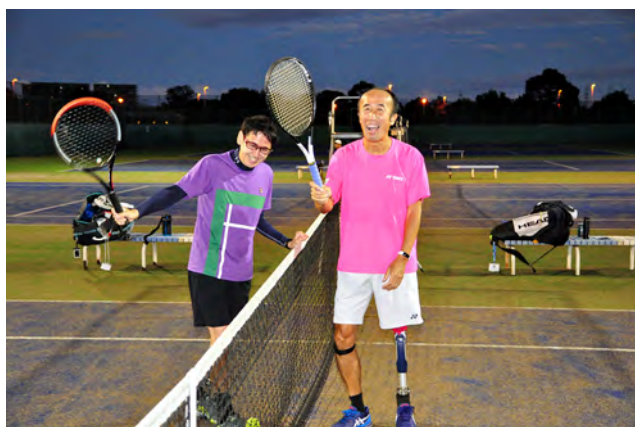
Category A の決勝戦前



どんどん日が暮れていきます



Category A1 決勝戦終了、すっかり日が暮れました



Category A 決勝戦終了、すっかり日が暮れました

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



上腕神経叢引き抜き損傷の足立優斗選手



右上肢麻痺の佐藤聡一郎選手



言語障害と麻痺がある嶋田和宏選手



左手の指欠損の高野健一選手



左下腿切断の高原安浩選手



右股関節機能障害の竹下力選手



左片麻痺の田畑和郎選手

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



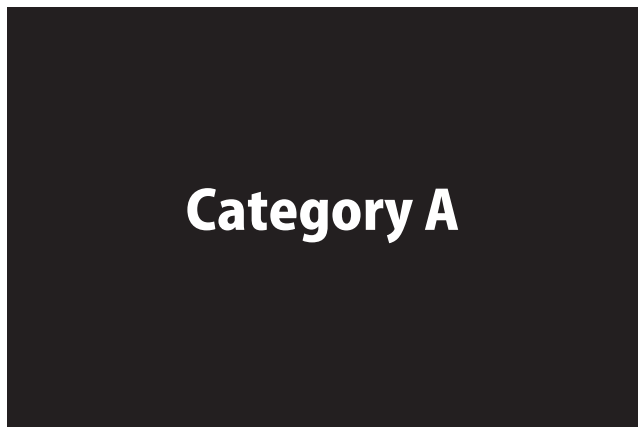
右手短合指症の細川颯一郎選手



左片麻痺の村山巧弥選手



上腕神経叢引き抜き損傷の森本瞳選手



左片麻痺の浅井政浩選手



右大腿切断の浅尾英司選手



右片麻痺の今村遥見選手

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



左片麻痺と言語障害の宇野尚志選手



左大腿切断の大久保諭選手



四肢関節拘縮の神崎進選手



左大腿切断の岸俊介選手



右片麻痺の重森克彦選手



左大腿切断の波田野裕介選手



左下肢麻痺と左半盲の吉村達也選手

Photo Gallery

Photo by Hitoshi Izumi



四肢麻痺の青木祐成選手



大会ドクター兼務、両下肢障がいの太田詔選手



両下肢障がいの大脇佳奈選手



両下肢障がいの関谷譲選手



脳性麻痺と感音性難聴の玉川まさみ選手（本来は CategoryB）

収入の部

項目	金額(円)	内容
参加費	78,000	3,000円／1人、26名参加
特別協賛金	350,000	2社様より(タムラクリエイト株式会社・BNPパリバ・グループ)
広告協賛金	20,000	1社様より(日本工学院八王子専門学校)
寄付	30,000	1社様より(テ・ホーム)
協会負担金	12,199	収入より支出が上回る分を負担
収入合計	490,199	

支出の部

項目	金額(円)	内容
会場使用料	3,000	ナイター照明代(会場使用料は千葉市による100%免除)
都市公園占用使用料	11,870	千葉市(協賛各社バナー掲出)
大会使用球費	27,027	イエロー2球入り30缶、オレンジ3ダース
印刷費(※)	55,686	A4チラシ2,500枚、A2ポスター200枚、A4パンフレット400部
デザイン版下作成費	50,000	R-WORKS
会場装飾費	41,691	大会バナー・バックボード作成
配布資料制作費	20,000	対戦表、トーナメント表
会場装飾備品費	0	既存流用
Bコート作成備品費	3,000	50mm巾マスキングテープ
事務用品費	1,210	ファイル、梱包用品
表彰用品費	23,980	優勝トロフィー4点、準優勝盾4点
参加賞費	12,840	大正製薬リポビタンD Sports
送料・通信費(※)	19,405	チラシ、ポスター、資料の発送費
衛生・救護用品費	0	既存流用
会議費	0	会議室利用料、喫茶代
選手・運営スタッフ昼食費	22,080	お弁当+水
運営スタッフ謝金費	48,000	3,000円×11名、5,000円×3名
旅費交通費	15,569	高速料金、ガソリン代
イベント保険費	1,651	50名(選手、スタッフ)想定
大会本部経費	40,000	競技委員長、競技副委員長 経費
大会記録費	20,000	スチールカメラマン1名
マニュアル・資料作成費	50,000	space design studio arc
雑費	3,190	アップ用ボール・振込手数料
未精算分見込み	約 20,000	報告書印刷代 A420P 200部 約 12,000円・送料 約 8,000円
支出合計	490,199	(※) 10月25日現在未精算の大会経費有り

収入合計 490,199円 - 支出合計 490,199円 = 0円

※ 10月25日現在、未精算の支出があります。支出では見込み額を計上、収入より支出が上回る分を協会負担金とし、収支がプラスマイナス0になるようにします。

The 3rd Champions & Runners 第3回チャンピオンと準優勝者

Photo by Hitoshi Izumi



カテゴリー A1 優勝 大会 3 連覇の高野健一選手



カテゴリー A1 準優勝 前回大会も準優勝の村山巧弥選手



カテゴリー A 優勝 第 1 回大会に続き 2 度目の優勝の岸俊介選手



カテゴリー A 準優勝 今大会では初めての準優勝の波田野裕介選手



カテゴリー B1 優勝 大会 3 連覇の青木祐成選手



カテゴリー B1 準優勝 今大会では初めての準優勝の関谷譲選手

<今大会ではCategory Bは実施されませんでした>

カテゴリー B1 優勝 なし

カテゴリー B1 準優勝 なし